

緑を守りぬいた人々がいた。  
いま、人々は緑に守られている。

### みどりのイメージ。

「みどり」という言葉は、いろいろなイメージをかもし出してくれます。そして、人によって、あるいはその人のいる場所によって、「みどり」についてのいろいろ違ったイメージが描かれても、そのどれもが、美しく健康的で潤いがあります。また、生まれてまもない赤ちゃんを「みどりご」と呼び、若い女性の美しい髪が「みどりなす黒髪」と形容されるように、緑は萌える生命力も象徴しています。私達にとって「みどり」は、森林であったり、並木や野の草花であったりしますが、「都市と緑」というとき、「みどり」は私達をとりまく環境そのものでもあります。

### いま、なぜ緑。

私達の熊本県も、県土面積の六十二パーセントは森林で、特に熊本は昔から「森の都」と呼ばれ、緑の豊富な地域として知られています。

緑の効用ということがよく話題になります。身近にある緑は、生活環境を美しくし、安らぎを与えるだけでなく、豊かな緑の集まりは、気候の調節をはじめ酸素の供給、大気の浄化など生命に必要な環境を維持し、また新たにつくり出していくために欠かすことのできない働きをしています。

いま、世界の各地で森林が消滅しつつあるという多数の報告があり、その憂慮すべき影響が地球的規模で指摘されています。

我が国でも、これまでの著しい経済の成長や都市化が進んだことなどにより、都市では緑が減少し、農村でも豊かな緑資源の維持管理に大きな危惧が持たれるようになってきました。一方、私達の生活の面では、経済的、物質的豊かさが一応達せられてきたなかで、改めて心の豊かさが、そして、生活の質的向上が求められるようになってきたのが、今だと言えます。

まさに、生活の中に、潤いやゆとりが、人間的な暖かさが、そしてこれらの全てに通じる緑が、強い関心を持って求められるようになったのです。

### 緑へ、出発のために。

近年、緑のまちづくり、木を植える運動や緑化週間、緑化まつり、緑の相談など各地でそれぞれに工夫を凝らした緑化の取り組みが行われています。それだけでなく、現在では、花と緑を基本においたまちづくりが、国をあげての課題とさえなっています。

ところで、我が国は世界的にみても緑の豊富な国だと言われています。

### 今日、熊本の緑。

私達の熊本は、北から東、南の三方を山地に囲まれており、四季折々に特色のある山岳美や渓谷美がくり広げられています。このような自然の緑に加え、都市内には、一年を通じて行楽やいこいの場として利用されている緑の拠点もまだ残っています。

肥後六花は、熊本の花を愛する長い歴史と伝統の結晶ですが、県下には心なごませる花の拠点も少なくありません。また、私達の祖先は良く保存された緑の遺跡や鎮守の森も県下各地に残っています。

このような、私達の県土をいろいろとっている種々な緑は、大切な遺産であり、この残された緑の環境を後世に引き継いでいくことは、今の私達に課せられた大きな務めであるとい

### 緑を創る。

熊本は、このように、いわば部分的な面としての、あるいは点としての緑の環境は豊かで、恵まれています。しかし、これまで熊本県の産業が発展して来るなかで、県下の緑の総量が減ってきていることは否めない事実であり、特に、都市内での身近な緑の減少が目立ってきています。

### 文明の前に森林があり、 文明の後に 砂漠が残る。

というある詩人の警告があります。また、緑の多い少いは文明の一つの尺度であるとも言えます。これから二十一世紀に向けて飛躍していく熊本の歩みの後には緑が残り、その歩みは豊かな緑に支えられたものでありたいものです。

このためには、いまある緑を守っていくことと同時に、新しく緑を創り出していくことが是非とも必要になってきます。



肥後しょうぶ